■片山兼山　　漢学者。徂徠の独断誤謬を激しく批判して，一世を風靡した。
かたやまけんざん
・・・・・・1730＝　　上野国平井村で，農家に生まれる。

享保大飢饉・1732＝ 2歳：

ﾛｼｱ船出没始 1739＝ **9歳：**

徳川吉宗隠居1745＝15歳：
菅原伝授＋・1746＝16歳：江戸に出て，服部南郭の門人鵜殿士寧に従って学び，その塾に寄寓。学業に励むとともに，弓道も習う。厚遇され信服していたが，師の傲慢さを避けるべく推挽を得て，服部南郭に入門して学を磨いた後，
忠臣蔵・・・1748**＝18歳：**その高弟秋山玉山が帰国するに従い，熊本に赴き，藩校時習館に寄寓し，生員となって十人扶持を受け，

徳川吉宗没・1751＝21歳：

山脇東洋解剖1754＝24歳：母病いの報で一度帰省しただけで，
勉励9年ののち，

源内物産会・1757**＝27歳：**去って京摂の地に赴き，
2年漫遊して，
大弐政治批判1759＝29歳：江戸に帰り，再び鵜殿氏に寓する。
大岡忠光没・1760＝30歳：
_荻生徂徠のけん園学に通暁し，

その高弟宇佐見？水に乞われて養子となり，一時宇佐見姓を名乗り，

忠臣蔵大当り1766**＝36歳：**
この間，**_「古文孝経標注」「古詩聯珠」などを著述するが，**

_次第に，けん園学に疑義を生じ，徂徠の独断と誤謬を激しく批判する「山子垂統」を著し，

田沼意次老中1772＝42歳：「古文孝経標注」「古詩聯珠」刊行。？水と見解を異にして去り，旗本遠山修理の邸に寄寓して教える。この頃は**＊修辞の学を嫌い，専ら経義を教え，古注疏を主とするもこれに拘泥せず，漢宋諸家の書を博究してその長をとり，諸子類に著眼してこれを講習し，けん園の学を排撃した。これを端緒として折衷学派が台頭してきて，江戸の学風が一変する。**
黄表紙始・・1775**＝45歳：＊「山子垂統」前編刊行，**
_やがて声価が一世に轟くようになる。人となり豪適で卓宕，好んで先儒を批判したため，忌む者も極めて多かったが，諸侯の中でも，弟子の礼を執って教えを受ける者も出，尾州侯が，唐の魏徴の「群書治要」を校刻するに当たり，校定の仕事を頼んできたが，
・・・・・・1780＝50歳：**＊「山子垂統」後編刊行，**

天明大飢饉始1782＝52歳：**＊未完成のまま，病没した。**
実子に朝川善庵がいる。「山子遺文」。なお兼山が論語孟子文選などに訓点を付して刊行したのを，山子点と呼んでいる。

「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，